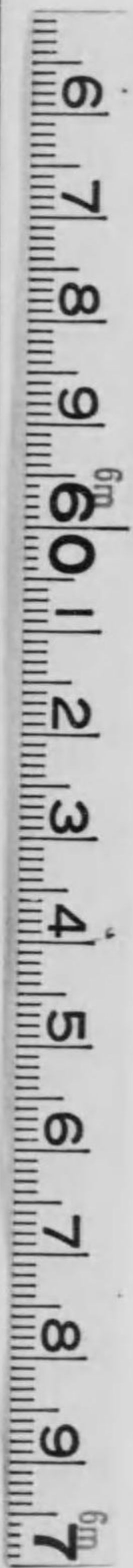


R813
ka59



始



外 1143
U

R
813.2
K459



和
大
辭
典

三
版



三
省
堂
編

41143

漢和字典叙
 漢字出多以千萬算。雖世
 稱博識者亦不能盡見而
 悉記。閭巷編氓欲錄曰常
 米鹽事亦不可不知數百
 字不便太甚矣。然我邦資

卷五

新編大雅集

三

三

支那學藝。以啟發人智。以
構。成制度。浸潤。出深。沿習。
出久。不。得。一。旦。廢。出。且。輒。
近。支。那。雖。陵。夷。不。振。其。開。
國。寂。舊。文。物。典。章。出。可。講。
明。者。不。甚。矣。但。其。字。數。幾。

萬。每。字。訓。釋。多。岐。使。人。有
望。洋。出。嘆。於。是。乎。字。書。出
用。寂。急。若。康。熙。字。典。五。篇。
成。于。彼。國。人。手。而。歲。月。出
久。不。適。邦。人。今。曰。出。用。其
佗。坊。間。瑣。二。編。述。鹵。莽。杜。

撰徒誤學者其不便益甚
矣三省堂主人有慨於茲
請重鑿三島服部三博士
監修倣泰西辭典體裁新
編纂一書意匠斬新完整
無比洵斯學出津梁也此

書一出彼此情形益相融
通以金唇齒也誼有補乎
東洋治安也蕭余夙抱善
鄰出志者安得不喜而叙
出

明治卅六年癸卯孟春

公爵近衛薦麻呂撰

曰下部東佐書



漢和字典序



字書之終。隨時世而變。在淳土。爾雅
之訓詁。說文原六義。建神類。而音訓
及篆籀附焉。是其終。然尤備在玉篇
以下。皆依倣之。然後世分部類。皆援
字形。而不復問造字之本。如信字。說
文在言部。玉篇以下入人部。是也。則

其體又一變矣。本邦初無文字。假
漢字以記言語。其字書。新撰字鏡為
最古。尋有字鏡集數種。而他坊本。概
皆節約。玉篇字彙字典等。乃施我音
訓。多陳二相因。不足悉錄也。東京書
肆三省堂。多校刻內外字書。頃者做
春西字書。音訓之外。附成語典故。其
有異義。亦訓之。每字別攷。而音訓並
雅俗兼收。命曰漢和字典。施我音
訓於漢字。亦云爾。顧彼之注成語典故。
故有佩文韻府等書。而我外和訓彙
等。皆與字書別行。今初編歸之於一。
不須檢閱他書。豈不亦至便乎哉。而
字書之體。於此又大變矣。夫字者孳

也。孳乳不益多。說文九千餘字。康熙
字典有。四萬餘。古字多假借。後世別
製其字。且事物日益繁。殖字數之益
多。亦隨時世者。聞秦西字僅二十餘
。而其語。今已至十四萬之多。漢字四
萬餘。併音訓算之。亦當十數萬。字內
言文之數。蓋無太差也。世有患漢字

過多者。為一言之。

明治三十六年一月上浣

成齋重野安釋書



例言

一本書は、泰西辭書中最も進歩したるもの、體裁に則りて、漢字を、平易に且つ秩序正しく訓釋したるものとす。

一字の排列の順序は、殆んど康熙字典に據り、甚しき廢字の外は、すべて之を收め、力めて字の遺脱なからんとを期したり。

一字毎に、其の下に、先づ漢音を記し、次ぎに吳音を記し(たゞ一音のみを記せ、
るは、漢吳兩音共通)、切之に次ぎ、韻之に次ぐ。韻の四聲は、□の隅に小圈を附して、之を分かつてり。即ち□は平聲、□は上聲、□は去聲、□は入聲なりとす。

一其の字の音若しくは韻の異なるに従ひ、義もまた異なる場合には、更に同字を別項に掲げて訓釋し、其の字の音若しくは韻の異なるものありと雖も、同じき訓釋に屬する場合には、之を一字の下に湊合せり。

一其の字の有する異義に従ひ、項を分かつて訓釋する場合には、原義を前にし、轉義を後にし、●●●の順に之を排列せり。若し其の中にて、若干の異義が、共通なる訓を有する場

合には、先づ其の訓を掲げ、次に(い)ろ(は)の順を追ひて之を訓釋せり。
一 解釋は、あらゆる字典を斟酌し、諸種の書史をも参照して、字義の内容を開展し異義の區別を明確にせんと力をめたり。

一 和訓は、極めて普通なるものを取り、若し和訓を附したるために、却つて誤謬を傳ふるの恐れあるものには、之を省略せるとあり。

一 熟語成語は、汎く諸書より之を摘抄し、すべて其の語末にあたる字の後に録せり。

一 引證せる典例出處は、正確簡明なるものを選び、冠頭に、其の書名、若しくは其の作者の名、或は其の詞賦の題を掲げたるも、書名は、間々之を略記したるとあり。例へば

- 〔書〕は書經 〔詩〕は詩經 〔易〕は易經 〔論〕は論語 〔孟〕は孟子 〔大〕は大學 〔中〕は中庸 〔老〕は老子 〔莊〕は莊子
 - 〔管〕は管子 〔荀〕は荀子 〔韓〕は韓非子 〔周〕は周禮 〔儀〕は儀禮 〔戰〕は戰國策 〔左〕は左氏傳 〔國〕は國語 〔爾雅〕
 - 爾雅 〔史〕は史記 〔漢〕は漢書 〔後漢〕は後漢書 〔晉〕は晉書 〔周註〕は周禮の註 〔爾註〕は爾雅の註
- などの如し。餘は類推すべし。

一 卷頭に部の索引を附せり。索出せんとする字の偏傍冠脚に従ひて、其の部の頁數を茲に檢し、其の部の所在に就きて、之を索出すべし。

一 偏傍冠脚の明確なる字は、容易に索出し得べきも、偏傍冠脚の疑難なる字は、其の何の部に屬するかを知り難きが故に、索引の次に檢字を設けたり。其の字の總畫を數へて、茲に就き之を檢せば、其の字の何の部に屬するかを知り得べし。

一 音義殊別なれども、筆畫近似して混淆し易き字を判別するために、辨似を設け、檢字の次に附せり。

一 漢字のうち、特に我が國に於て訓を附し、其の訓の我が國にのみ行はるゝものあり。之を稱して國訓といふ。又我が國に於て製作せる漢字あり。之を稱して國字といふ。共に諸書に散見し、俗間に使用せらるゝもの少しとなさず。其の著要なるものを蒐輯し、共に總畫數の順に隨ひて、之を卷尾に附せり。

一 篆文は、今日使用せる漢字の前身原形なり。字畫を訂し字義を考ふるには、之を知るの必要あり。故に又之を卷尾に附せり。

一 本書は、重野、三島、服部三博士監修の下に成りしも、三島博士は、東宮供奉のため不在の事多かりしを以て、全部の監修を請ふと能はざりき。

一附録の漢字便覧は、山本萬次郎氏の遺著にして、字音の系統に従ひて字を排列し之に平易の訓義を施したるもの、蓋し新機軸の組織なり。字を索知するに便益尠からざるを以て、之を綴附せり。

例言終

索引

(数字は本文の頁数を表はす)

玉	瓜	止	文	工	女	又	力	人	一
瓜	父	夕	斗	巳	子	口	勺	儿	一
瓦	爻	爻	斤	巾	口	口	匕	入	一
甘	月	母	方	干	寸	口	口	八	一
生	片	比	无	心	么	小	土	口	一
用	牙	毛	日	戈	广	九	士	十	一
田	牛	氏	日	尸	尸	及	卜	子	一
疋	犬	气	月	手	井	山	月	几	一
疒	水	水	木	交	山	夕	厂	口	一
						大	ム	刀	一

采里 部首	走足 部足	見角 部見	立 部立	刃 部刃	曳 部曳	旨 部旨	婦 部婦	尻 部尻	奈夷 部奈	圭 部圭	后 部后	盲各 部盲	完 部完
里 部里	身車 部身	言谷 部言	考 部考	火 部火	有 部有	早旬 部早	戌戌 部戌	帝 部帝	安 部安	尪 部尪	吏向 部吏	合吳 部合	平 部平
研 部研	辛辰 部辛	豆豕 部豆	耂 部耂	牛 部牛	死 部死	旭 部旭	年 部年	寺 部寺	夸 部夸	各 部各	吉吊 部吉	卅 部卅	
乱 部乱	走邑 部走	豕貝 部豕	耂 部耂	未 部未	余 部余	束 部束	收 部收	尖 部尖	改 部改	回 部回	呂同 部呂	受 部受	
况 部况	酉 部酉	赤 部赤	月 部月	肩 部肩	灰 部灰	次 部次	次 部次	字 部字	存 部存	存 部存	存 部存	存 部存	
尿 部尿	良 部良	更 部更	攸 部攸	攸 部攸	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	
東 部東	未 部未	更 部更	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	
末 部末	更 部更	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	改 部改	
岬 部岬	步 部步	止 部止	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	
叔 部叔	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	殺 部殺	

反收 部反	天太 部天	友 部友	十 部十	元 部元	巧 部巧	父 部父	受 部受	方 部方	心 部心	力 部力	耳 部耳	耳 部耳	耳 部耳
又 部又	夫 部夫	及 部及	化 部化	内 部内	丑 部丑	母 部母	母 部母	无 部无	戈 部戈	耳 部耳	耳 部耳	耳 部耳	
收 部收	夫 部夫	友 部友	化 部化	内 部内	丑 部丑	母 部母	母 部母	无 部无	戈 部戈	耳 部耳	耳 部耳	耳 部耳	
天 部天	太 部太	友 部友	化 部化	内 部内	丑 部丑	母 部母	母 部母	无 部无	戈 部戈	耳 部耳	耳 部耳	耳 部耳	
太 部太	夫 部夫	友 部友	化 部化	内 部内	丑 部丑	母 部母	母 部母	无 部无	戈 部戈	耳 部耳	耳 部耳	耳 部耳	
夫 部夫	友 部友	化 部化	内 部内	丑 部丑	母 部母	母 部母	无 部无	戈 部戈	耳 部耳	耳 部耳	耳 部耳	耳 部耳	

委 <small>部米</small>	卑 <small>部土</small>	岷 <small>部山</small>	峽 <small>部山</small>	耗 <small>部火</small>	杰 <small>部木</small>	易 <small>部日</small>	陌 <small>部日</small>	放 <small>部日</small>	房 <small>部日</small>	常 <small>部日</small>	密 <small>部日</small>	嬰 <small>部日</small>	臭 <small>部日</small>	泰 <small>部日</small>	泰 <small>部日</small>	泰 <small>部日</small>	泰 <small>部日</small>
盲 <small>部米</small>	畫 <small>部土</small>	岷 <small>部山</small>	峽 <small>部山</small>	岷 <small>部山</small>	武 <small>部木</small>	昔 <small>部日</small>	昞 <small>部日</small>	收 <small>部日</small>	所 <small>部日</small>	忝 <small>部日</small>	岳 <small>部山</small>	尚 <small>部日</small>	妻 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>
俯 <small>部米</small>	直 <small>部土</small>	岷 <small>部山</small>	峽 <small>部山</small>	岷 <small>部山</small>	武 <small>部木</small>	昔 <small>部日</small>	昞 <small>部日</small>	收 <small>部日</small>	所 <small>部日</small>	忝 <small>部日</small>	岳 <small>部山</small>	尚 <small>部日</small>	妻 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>
俯 <small>部米</small>	直 <small>部土</small>	岷 <small>部山</small>	峽 <small>部山</small>	岷 <small>部山</small>	武 <small>部木</small>	昔 <small>部日</small>	昞 <small>部日</small>	收 <small>部日</small>	所 <small>部日</small>	忝 <small>部日</small>	岳 <small>部山</small>	尚 <small>部日</small>	妻 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>	查 <small>部日</small>

森 <small>部木</small>	家 <small>部火</small>	直 <small>部土</small>	响 <small>部日</small>	却 <small>部日</small>	奚 <small>部日</small>	京 <small>部日</small>	拳 <small>部日</small>	敕 <small>部日</small>	料 <small>部日</small>	晋 <small>部日</small>	架 <small>部日</small>	跌 <small>部日</small>	班 <small>部日</small>	畝 <small>部日</small>
兼 <small>部土</small>	勢 <small>部火</small>	暇 <small>部日</small>	咈 <small>部日</small>	通 <small>部日</small>	豹 <small>部日</small>	豹 <small>部日</small>	恭 <small>部日</small>	效 <small>部日</small>	料 <small>部日</small>	晋 <small>部日</small>	架 <small>部日</small>	跌 <small>部日</small>	班 <small>部日</small>	畝 <small>部日</small>
兼 <small>部土</small>	勢 <small>部火</small>	暇 <small>部日</small>	咈 <small>部日</small>	通 <small>部日</small>	豹 <small>部日</small>	豹 <small>部日</small>	恭 <small>部日</small>	效 <small>部日</small>	料 <small>部日</small>	晋 <small>部日</small>	架 <small>部日</small>	跌 <small>部日</small>	班 <small>部日</small>	畝 <small>部日</small>
兼 <small>部土</small>	勢 <small>部火</small>	暇 <small>部日</small>	咈 <small>部日</small>	通 <small>部日</small>	豹 <small>部日</small>	豹 <small>部日</small>	恭 <small>部日</small>	效 <small>部日</small>	料 <small>部日</small>	晋 <small>部日</small>	架 <small>部日</small>	跌 <small>部日</small>	班 <small>部日</small>	畝 <small>部日</small>

○辨 似 二字相似

圮	次	冲	忍	糸	束	汰	回	言	聿	耒	艸	市	宀	四
やぶる。	つぐ。	氷をわるこゑ。	いかる。	ほそきいと。	いばら。	よれあるふ。	めぐる。	くちばや。	ふて。	すき。	くさ。	市に同じ。	まげし。	よつ。
圮	次	冲	忍	糸	束	汰	回	言	聿	耒	艸	市	宀	四
つらばし。	よだれ。	和融の意にいふ字。	まのぶ。	つぐ。	つかぬ。	すなゆる。	古文の面の字。又俗の回字。	くちばや。	竹。	とかき。	古文の攀の字。	草の總名。	あな。	あみ。
粵	盲	皂	沂	谷	辛	豕	串	聿	玨	物	改	技	囟	荔
なとこぎ。	むなまき。	くるし。	水の名。	たに。	からし。	ぬのこ。	うがつ。	かまびすし。	たま。	みつ。	まはぶき。	わざ。	ひよめき。	さく。
粵	盲	皂	沂	谷	辛	豕	串	聿	玨	物	改	技	囟	荔
ひこばえ。	めくら。	くるこめ。	さかのぼる。	口の阿。	つみ。	たるま。だされ	くし。	たれみ。	あまれし。	けものな。	わらふ。	たよく。	臍に同じ。	す。ちからをあは
盍	矧	汰	杓	杲	智	枕	直	邵	免	沐	汨	底	夾	戾
あらし。	てをあはす。	水穴より狭く出づ。	杓に同じ。	あきらか。	助に同じ。	くむ。	依る。	たかし。	ゆるす。	かみあらふ。	まづむ。	といし。	さしはさむ。	戸。輜車の旁の推
盍	矧	汰	杓	杲	智	枕	直	邵	免	沐	汨	底	夾	戾
ち。	こめ。	水の貌にいふ字。	櫛に同じ。	古文の杲の字。	忽に同じ。	うつ。	こいへ。	姓。	うまぎ。	みづの姿。	ほやし。	そこ。	物を盗む。	もとる。

二

○辨 似 二字相似

孟	佳	券	斨	門	妹	蚪	糾	刺	軌	易	扁	芝	紉	胖
わん。	とり。	わりふ。	をの。	かど。	いもふと。	みづち。	あざなふ。	そしる。	くるまのわだち。	やすし。	あな。	れいし。	たちまち。	眼に同じ。
孟	佳	券	斨	門	妹	蚪	糾	刺	軌	易	扁	芝	紉	胖
めしびつ	よし。	つかる。	やぶる。	たしかふ。	妹婿。	蚪蚪。	黄色の絲。	もとる。	くるまのまきみ。	古文の陽の字。	いたる。	草の水に浮べる貌にいふ字。	れりぎぬ。	ゆたか。
味	捍	苗	苟	穿	柰	臭	販	負	姫	郗	岡	玫	邛	幸
くらし。	わせ。	なへ。	かりそめ。	とづ。	木の名。	犬みる。	まなこ。	になふ。	つゝしむ。	骨節の間。	おか。	玫瑰。	邛に同じ。	さいはひ。
味	捍	苗	苟	穿	柰	臭	販	負	姫	郗	岡	玫	邛	幸
ほし。	ふせぐ。	あじか。	すみやか。	おとしあな。	きび。	にほひ	うる。	神の名。	ひめ。	さとの名。	あみ。	珉に同じ。	障に同じ。	小なる幸。
聆	埧	跌	窟	胎	冠	秩	蚩	勅	胄	浪	段	苜	泽	斛
こみ。	埧に同じ。	跌坐。	出てんとする貌にいふ字。	みる。	かんむり。	くるいれ。	虫のびゆく。	みことのり。	かぶと。	水の名。	きれ。	うまこやし。	水の名。	角の貌にいふ字。
聆	埧	跌	窟	胎	冠	秩	蚩	勅	胄	浪	段	苜	泽	斛
きく。	つゝみ。	つまづく。	あな。	のこす。	あだ。	ついて。	わらふ。	いましむ。	よつぎ。	なみ。	かり。	目たしからず。	洪水。	量目。

三

班	俳	冢	祐	挺	朕	祇	紙	陝	釧	釵	釧	敕	脊	浙
わかづ。	たはむれ。	古文の審の字。	石の室。	なほし。	われ。	つしむ。	かみ。	せばし。	刀に同じ。	やす。	いしゆみ。	むちうつ。	古文の慎の字。	江の名。
班	俳	冢	祐	挺	朕	祇	紙	陝	釧	釵	釧	敕	脊	浙
まだら。	たちやすらふ。	つかさ。	みじかきころ	とる。	目のひとみ。	みじかきころ	糸くづ。	地名。	副に同じ。	いる。	鉗	制書。	せな。	かしよれ。
歎	擗	敕	雀	鄂	晟	脩	豈	覓	栗	殊	枝	凍	清	奘
つばきはく。	あたふ。	こえだ。	丑に同じ。	あぎと。	めしびつ。	束脩。	樂をつられて	すむ。	くり。	おそる。	くき。	こほり。	さむし。	大いなり。
歎	擗	敕	雀	鄂	晟	修	豈	覓	栗	殊	枝	凍	清	奘
よろこぶ。	なげうつ。	こころみる。	ほしのな	くいのな	あきらか。	なさむ。	あに。	もとむ。	古文の栗の字。	襖に同じ。	いたむ。	暴雨。	きよし。	つよし。
軹	脛	商	姪	場	揚	惕	訢	扉	冕	招	鈇	駘	祚	淖
車の轂。	はぎ。	もと。	たのしむ。	さかひ。	かしく。	うれふ。	欣に同じ。	わらぐつ。	かんむり。	つかむ。	ほこ。	つかひ。	神。	どろ。
軹	脛	商	姪	場	揚	惕	訢	扉	冕	招	鈇	駘	祚	淖
車の後。	かばる。	あきなふ。	うつくし。	には。	あぐ。	なほむる。	うたふ。	とびら。	冕に同じ。	とる。	つよし。	服に同じ。	祭。	淖に同じ。

歐	痠	禕	禕	陽	蓐	輓	頰	頰	諛	盡	壺	嗚	閨	羨	裕
はく。	うまじに。	うつくし。	さいほひ。	ける。	芭蕉。	ひく。	まのあたり	まのあたり	みちびく。	つくす。	つぼ。	くもる。	くわんのき。	地名。	あはせまつり。
歐	痠	禕	禕	陽	蓐	輓	頰	頰	諛	盡	壺	嗚	閨	羨	裕
うつ。	やせる。	ふくる。	ころもあつし。	つまづく。	ぬなほ。	くびき。	すこやか。	すこやか。	そらごと。	つば。	み。	あきらか。	うるふ。	うらやむ。	あはせ。
塵	鍊	澧	錫	疆	曉	檣	橐	藁	蓐	賣	禿	萬	熱	頤	龔
塵のたぐひ。	くさび。	水の名。	す。	つよし。	あかつき。	木の名。	つく。	つく。	くさびら。	うる。	さいほひ。	古文の災の字。	おそる。	みる。	むじな。
塵	鍊	澧	錫	疆	曉	檣	橐	藁	蓐	賣	禿	萬	熱	頤	龔
塵のたぐひ。	きたふ。	水の名。	むまのひたひ	さかひ	おちいりめ。	きのな。	そり。	たかむしろ。	うばふ。	てらふ。	うばふ。	書。	ありさま。	おとがひ。	むじな。
捷	雁	掾	祿	敷	緇	腎	傅	祓	欵	涓	禪	褻	闕	闕	闕
あぐ。	雁に同じ。	たすけ。	祭器。	あなどる	あし。	いばりふくる。	かしづき。	樂章。	なげく。	あめる。	まづか。	重衣。	まづか。	ちまた。	たしかふ。
捷	雁	椽	椽	敷	緇	腎	傅	祓	欵	涓	禪	褻	闕	闕	闕
つよきうし。	たか。	たるき。	みじかき衣。	あがる。	おほなほ。	みる。	つたふ。	戒衣。	そばだつ。	あつものしふ	うすきころも。	私服。	めなたれてみ		

〇辨似 二字相似 三字相似

棟	棟	溥	溥	鍛	鍛
むなぎ	あふち	あまれし	露おほし	きたふ	かぶと
かみをそる	かみたる	いのる	裯 軍衣	すし	煮 ぼしうを
髭	邨	寘	寘	燹	燹
ひざ	所の名	おく	ふさぐ	のび	いね
塚	塚	裸	裸	藉	籍
塚に同じ	塚に同じ	そいぐ	はだか	席	ふみ
棟	棟	溲	溲	鑿	鑿
鼓の聲	こつひみ	こさめ	ぬせき	田器	田器
諫	諫	溲	溲	爾	爾
いさむ	うながす	なごる	なごる	さかんなり	はこ
登	登	溲	溲	槩	槩
たかつき	のぼる	なごる	なごる	かづら	酒器
莫	莫	頊	頊	諛	諛
たしく	うつ	なほし	つしむ	いっほる	さげふ
鮐	鮐	暖	暖	譎	譎
うをの名	うをの名	暖に同じ	大なる目	さとし	そしる
綏	綏	搏	搏	鞞	鞞
安し	かむりのひも	うつ	あつむ	かく	とぶ
慄	慄	鍾	鍾	鑪	鑪
おそる	上の顔色を承	さかづき	つりかれ	なべ	くつばみ
楊	楊	聽	聽		
かたぬぐ	道の神	いれんとす	きく		
兩	西	錫	錫		
おほふ	にし	あめ	あめ		

三字相似

凡 人に同じ 凡 とぶ 凡 おしまづき 己 おのれ 已 すてに 已 け

四字相似

《	《	《	《	初	初
川の本字	古文の坤の字	災の本字	木の心	木の心	柱初
另	另	另	白	白	白
わかつ	副に同じ	別に同じ	うす	古文の解の字	古文の齒の字
卯	卯	卯	况	况	况
卯に同じ	卯に同じ	卯に同じ	いはんや	寒水	俗の況の字
本	本	本	翊	翊	翊
もと	とまろ	はしる	字とぶ貌にいふ	とぶ	あくるひ
芄	芄	芄	辦	辦	辦
芄野	芄	芄	力を致す	わかつ	わかまふ
芄	芄	芄	母	母	母
古文の降の字	芄	芄	なけれ	つらぬく	はし

五字相似

木	木	木	木	木	木
木	木	木	木	木	木
つちのえ	をの	いね	まもる	出づ	ひぐれ
延	延	延	延	延	延
あゆむ	ゆく	上に同じ	のぶ	あつむ	はむ
芄	芄	芄	芄	芄	芄
くさのな	くさまげ	羊の本字	羊	芄	芄

辨似終

〇辨似 四字相似 五字相似

月 つき 円 丹の字 目 肉の字旁 月 舟の字旁

世 生に同じ。如一人自一至老。〇列亦世に同じ。

丘 キウ、去鳩 困 克 坐 土地の自然に小高き處。やまな

承 シヨウ、シヨウ、兼仍切 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

丙 十千の二ひのえ。〇爾。木歲在

丙 舌端口外に露る。いづ、あらける。

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

承 天子の輔佐。たすけ。〇戰。禹有

𠂔 西に同じ。

𠂔 並に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

𠂔 𠂔に同じ。

卯

得に同じ。○周「國中一失之事。」

中

カイ、ケ、古拜切。草生ひまげりて亂る、みだる、又、あくた草芥。○司馬相如「種一草之遊樹」。

丰

フ、(ホウ) 符風。神の盛んに生ひそだつ貌にいふ字。ゆたかなり、さかんなり。○説文「肉附ゆたかにして容色の美好なる貌にいふ字、おもぶくら、みめよし。○詩「子之一兮」。

尹

グキ、ギヤク、訖逆切。手に握るにきる、もつ。○元包經「尹之握」。

卯

クワン、ケン、古忠切。鏡角分を結びたる貌又は幼稚なる貌にいふ字、あいらし、いとけなし。○詩「鏡角一分」。

卯

横に同じ。○荀「惡民慣に同じ、ならふなる。○荀「惡民之、中以三無分、得と之」。

申

セン、尺絹切。穿に同じ、つらわく、うがつ。○正義「穿亦作申」。

申

肉を賣きて燻く具くし。○韓愈「如以肉貫」。

申

サク、ソク、仕角切。叢生の艸、くさ、又、叢生の艸の貌にいふ字、まげし。○説文「象」。

部

チヌ、ツ、知庚切。古文の主の字。○六書正譌「主、中火一也」。

イ、於夷切

伊に同じ、専ら佛書に用ひて、法根の法界に遍満せる意を表はし、又災禍の義を表はす。○苑成「三點成」。

凡

クワン、胡官切。たす。

丹

一種の礦物、水銀と硫黄との化合より成り、通常赤色を帯び、辰砂、丹砂、○書「礬、礬、礬」。道家にて、礬物を精煉して製したる礬となし、より古昔丹砂を以て石の精となし、○黄庭經「九轉八環」。道家にて、神氣を修煉して毒を保ちるに用いるの礬故を吐き新を納る特殊の呼吸法による。一に内丹といふ。○沈「一貫」。

丸

俗の凡の字。

丹

タ、都寒切。一種の礬物、水銀と硫黄との化合より成り、通常赤色を帯び、辰砂、丹砂、○書「礬、礬、礬」。道家にて、礬物を精煉して製したる礬となし、より古昔丹砂を以て石の精となし、○黄庭經「九轉八環」。道家にて、神氣を修煉して毒を保ちるに用いるの礬故を吐き新を納る特殊の呼吸法による。一に内丹といふ。○沈「一貫」。

丸

俗の凡の字。

主

シ、之夷切。○説文「中之燭火、あかし」とし、其形、○説文「中火、一也」。○段「其形、甚微、而明照」。

主

○説文「主、一家無二」。○柳宗元「問其、曰、唐氏之棄地」。

主

○説文「主、一家無二」。○柳宗元「問其、曰、唐氏之棄地」。

主

○説文「主、一家無二」。○柳宗元「問其、曰、唐氏之棄地」。

主

○説文「主、一家無二」。○柳宗元「問其、曰、唐氏之棄地」。

主

「凡借二事一理、一説二形、出本題正意、無非此也」。○易「榮華之」。

主

○説文「主、一家無二」。○柳宗元「問其、曰、唐氏之棄地」。

主

○説文「主、一家無二」。○柳宗元「問其、曰、唐氏之棄地」。

主

○説文「主、一家無二」。○柳宗元「問其、曰、唐氏之棄地」。

主

○説文「主、一家無二」。○柳宗元「問其、曰、唐氏之棄地」。

【石】石質を含有する水が石炭酸に属す。田舎の水はこれをなせるもの多し。古來田舎の水は石炭酸を含有するもの多し。○田舎の水は石炭酸を含有するもの多し。○田舎の水は石炭酸を含有するもの多し。

【乾】ケン。渠焉切。【困】キウ。ク。渠尤切。【困】速に同じ。つれあひ。○揚雄「困於困」。○「困」。

【乾】ケン。渠焉切。【困】キウ。ク。渠尤切。【困】速に同じ。つれあひ。○揚雄「困於困」。○「困」。

【乾】ケン。渠焉切。【困】キウ。ク。渠尤切。【困】速に同じ。つれあひ。○揚雄「困於困」。○「困」。

【乾】ケン。渠焉切。【困】キウ。ク。渠尤切。【困】速に同じ。つれあひ。○揚雄「困於困」。○「困」。

【乾】ケン。渠焉切。【困】キウ。ク。渠尤切。【困】速に同じ。つれあひ。○揚雄「困於困」。○「困」。

【乾】ケン。渠焉切。【困】キウ。ク。渠尤切。【困】速に同じ。つれあひ。○揚雄「困於困」。○「困」。

【乾】ケン。渠焉切。【困】キウ。ク。渠尤切。【困】速に同じ。つれあひ。○揚雄「困於困」。○「困」。

部

【了】レウ。盧鳥切。【了】手變りて伸びず、ひきつる。○朱駿聲「手之變曰了」。○「了」。

【了】レウ。盧鳥切。【了】手變りて伸びず、ひきつる。○朱駿聲「手之變曰了」。○「了」。

【了】レウ。盧鳥切。【了】手變りて伸びず、ひきつる。○朱駿聲「手之變曰了」。○「了」。

【了】レウ。盧鳥切。【了】手變りて伸びず、ひきつる。○朱駿聲「手之變曰了」。○「了」。

【了】レウ。盧鳥切。【了】手變りて伸びず、ひきつる。○朱駿聲「手之變曰了」。○「了」。

【了】レウ。盧鳥切。【了】手變りて伸びず、ひきつる。○朱駿聲「手之變曰了」。○「了」。

【了】レウ。盧鳥切。【了】手變りて伸びず、ひきつる。○朱駿聲「手之變曰了」。○「了」。

【了】レウ。盧鳥切。【了】手變りて伸びず、ひきつる。○朱駿聲「手之變曰了」。○「了」。

部

【予】ヨ。余呂切。【予】推付す、さしたてわたり、さづく。○「予」。

【予】ヨ。余呂切。【予】推付す、さしたてわたり、さづく。○「予」。

【予】ヨ。余呂切。【予】推付す、さしたてわたり、さづく。○「予」。

【予】ヨ。余呂切。【予】推付す、さしたてわたり、さづく。○「予」。

【予】ヨ。余呂切。【予】推付す、さしたてわたり、さづく。○「予」。

【予】ヨ。余呂切。【予】推付す、さしたてわたり、さづく。○「予」。

【予】ヨ。余呂切。【予】推付す、さしたてわたり、さづく。○「予」。

【予】ヨ。余呂切。【予】推付す、さしたてわたり、さづく。○「予」。



(圖之秤)

子 キヨ、コ、休居切 匳
 呼に通じ用ふ、なげく、あ、い、○詩「曉曉兮」
 古文の子の字。

互 互、胡誤切 匳
 ① 互の字、互を収め、互を具なはまき、○説文「互或省、段註或省當作古互二字」
 ② 肉を懸る架たな、かけぎ、○周「供其牛牲之一」
 ③ 竹又は木を組みあはせて障隔(さ)となすもの、らち、こませ、やらい、○周「掌比三國中宿一樓者」
 ④ 交差す、たがひちがひになる、いりまじる、いりちがふ、まじる、たがふ、○書「疏、秋冬相與」
 ⑤ 交差せしむ、たがひちがひにす、いりまじらす、いりちがはす、たがふ、まじぶ、○北「回、一其文字、二作詩二百八十篇」
 ⑥ かはりあひて、たがひちがひに、かはる、かたみに、たがひに、○

① 互を爲す、いふ、いはく、まうす、○
 ② 互、入、則入、坐、則坐、○
 ③ 互、互に用ふる字、○詩「一何互矣」
 ④ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」
 ⑤ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」
 ⑥ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」

元 古文の其の字、その、
 ① 一に四を加へたる數、即ち十を折半したる數にして、古來これを中數と稱す、い、い、い、○易「天數、地數、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百」
 ② 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」
 ③ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」
 ④ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」

井 セイ、シヤウ、子野切 匳
 ① 地を掘りて地下水を湛(た)み汲み取るやうにしたる所、ぬど、○五「掘、九、使、而、不、及、泉」
 ② 轉じて、地を掘りて或物を採取する所の稱、○江「池、舟、復、塞、決」
 ③ 井田の制にて、井字形に劃したる地積の稱、股にては其の一區七十畝の制なりし故に六百三十畝、周にては其の一區百畝の制なりし故に九百畝にして、即ち方一里なり、蓋し股を周と其の畝數を異にせざる、尺度を異にせし、因り、實際の地積、於ては同一なり、○孟「方里而、九、百、畝」
 ④ 二十八宿の一、南方の宿、ちり、○
 ⑤ 六十四卦の一、即ち三三三三、通用濟深、良易、○又、は、變、更、せ、ざ、ら、ぬ、と、等、の、象、と、す、○易「一、改、也」
 ⑥ 井幹(い)の形をなすもの、ぬけた、ぬけた、○張「圓、一、吐、也」
 ⑦ 井(い)の稱、○張「圓、一、吐、也」
 ⑧ 井(い)の稱、○張「圓、一、吐、也」

于 キヨ、コ、休居切 匳
 呼に通じ用ふ、なげく、あ、い、○詩「曉曉兮」
 古文の子の字。

互 互、胡誤切 匳
 ① 互の字、互を収め、互を具なはまき、○説文「互或省、段註或省當作古互二字」
 ② 肉を懸る架たな、かけぎ、○周「供其牛牲之一」
 ③ 竹又は木を組みあはせて障隔(さ)となすもの、らち、こませ、やらい、○周「掌比三國中宿一樓者」
 ④ 交差す、たがひちがひになる、いりまじる、いりちがふ、まじる、たがふ、○書「疏、秋冬相與」
 ⑤ 交差せしむ、たがひちがひにす、いりまじらす、いりちがはす、たがふ、まじぶ、○北「回、一其文字、二作詩二百八十篇」
 ⑥ かはりあひて、たがひちがひに、かはる、かたみに、たがひに、○

互 互、胡誤切 匳
 ① 互を爲す、いふ、いはく、まうす、○
 ② 互、入、則入、坐、則坐、○
 ③ 互、互に用ふる字、○詩「一何互矣」
 ④ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」
 ⑤ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」
 ⑥ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」

元 古文の其の字、その、
 ① 一に四を加へたる數、即ち十を折半したる數にして、古來これを中數と稱す、い、い、い、○易「天數、地數、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百」
 ② 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」
 ③ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」
 ④ 互、互に用ふる字、○詩「伊誰互」

井 セイ、シヤウ、子野切 匳
 ① 地を掘りて地下水を湛(た)み汲み取るやうにしたる所、ぬど、○五「掘、九、使、而、不、及、泉」
 ② 轉じて、地を掘りて或物を採取する所の稱、○江「池、舟、復、塞、決」
 ③ 井田の制にて、井字形に劃したる地積の稱、股にては其の一區七十畝の制なりし故に六百三十畝、周にては其の一區百畝の制なりし故に九百畝にして、即ち方一里なり、蓋し股を周と其の畝數を異にせざる、尺度を異にせし、因り、實際の地積、於ては同一なり、○孟「方里而、九、百、畝」
 ④ 二十八宿の一、南方の宿、ちり、○
 ⑤ 六十四卦の一、即ち三三三三、通用濟深、良易、○又、は、變、更、せ、ざ、ら、ぬ、と、等、の、象、と、す、○易「一、改、也」
 ⑥ 井幹(い)の形をなすもの、ぬけた、ぬけた、○張「圓、一、吐、也」
 ⑦ 井(い)の稱、○張「圓、一、吐、也」
 ⑧ 井(い)の稱、○張「圓、一、吐、也」

うしなふ(失) ○(家語)「楚王」
見楚人得之。○(左)「解」
命をうしなふ、身ほろぶ、みまかる、まぬ。○(詩)「人之云」
居らず、在らず、なし。○(論)「時」
一而往拜之。○(北)「古事有」
忘に同じ。○(北)「古事有」
所遺。○(北)「古事有」

亡

亡 ア、ム、微夫切 園
無に同じ。なし。○(論)「而爲有」
無に同じ。なし。○(論)「而爲有」

亢

亢 カウ、居耶切 園
くびのく。○(史)「乃」
仰絶一而死。○(史)「乃」
仰絶一而死。○(史)「乃」

亢

亢 カウ、苦漢切 園
二十八宿の一、東方の宿、あみほし。
○(春秋)「命包」一四星、爲三廟庭
應政之所。○(史)「乃」
あり餘る。○(史)「乃」
あり餘る。○(史)「乃」

うけとる、なまむ。○(桂苑叢書)「
領已分明」
○(詩)「十月之」
會合する場所、あひまよ。
○(班固)「戰于河清」
衣服の襟、えり、えも入。○(揚雄)
「解」
○(史)「乃」
○(史)「乃」
○(史)「乃」

交 カウ、ケウ、古肴切 園
左右の脛を組みかへす、かへす。
○(戰)「足而待」
○(戰)「足而待」
○(戰)「足而待」

亨 カウ、ヤウ、許庚切 園
故障なく通達す、とほる。○(易)「
者嘉之會也」
○(易)「
者嘉之會也」
○(易)「
者嘉之會也」

京 ケイ、キヤウ、舉雅切 園
築造に成りたる高地、轉じて、自然
に成りたる高地、な。○(詩)「如」
抵如」
○(詩)「如」
抵如」
○(詩)「如」
抵如」

交 其の第三に屬するものなり、もま
た。○(史)「夏」
○(史)「夏」
○(史)「夏」

亨 カウ、ヤウ、許庚切 園
天子に同じ、すむ、む、く。○(易)「
天子」
○(易)「
天子」
○(易)「
天子」

亨 カウ、ヤウ、許庚切 園
天子に同じ、すむ、む、く。○(易)「
天子」
○(易)「
天子」
○(易)「
天子」

京 ケイ、キヤウ、舉雅切 園
築造に成りたる高地、轉じて、自然
に成りたる高地、な。○(詩)「如」
抵如」
○(詩)「如」
抵如」
○(詩)「如」
抵如」

人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、

人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、

人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、

人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、

人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、

人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、

人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、

人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、
 人。○(五) 昔自の行状を語りて、

○史註「前主所」是著爲「律後主所」是疏爲「律」。

の特稱。○(史註)「前主所」是著爲「律後主所」是疏爲「律」。

○(詩)「有女」。

○(詩)「有女」。

○(史註)「前主所」是著爲「律後主所」是疏爲「律」。

の特稱。○(史註)「前主所」是著爲「律後主所」是疏爲「律」。

○(詩)「有女」。

○(詩)「有女」。

きりや、器度。○(音)棟、梁之。○爲し得る所、堪へ得る所。○(五)○(鳥)獲之。○(周)一邦、國。○(よ)くす(克)。○(戰)無(一)交。○(も)ちふ(用)。○(三)國(專)一(智)力(成)功(業)。

○(專)らつとめに當たらしむ、ゆた(る)○(史)然(三)國(一)○(釋)然(柳)卷(一)陳(容)馬(入)○(管)君(擇)臣(而)一(官)○(命)を(受)けて(職)を(行)ふ(地) ○(三)國(未)之(一)而(卒) ○(史)註(劉)一(者)二(觀)三(其)胎(產)一

○(任) 再(以)つとめと(故)く(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一)

○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一)

○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一)

○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一)

○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一)

○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一)

○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一) ○(任) 再(以)つとめ(に)か(ら)ぬ(と)も(の)つとめ(に)か(ら)ぬ(と) ○(三)國(一)

○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一)

○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一)

○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一)

○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一)

○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一)

○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一)

○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一)

○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一) ○(後)漢(經)緯(一)

住 止むる。止。○言「諸君少」。○後漢「停車」。○後漢「停車」。○後漢「停車」。○後漢「停車」。

住 止むる。止。○言「諸君少」。○後漢「停車」。○後漢「停車」。○後漢「停車」。

佐 力添へ益を興ふ。○後漢「益」。○後漢「益」。○後漢「益」。

体 体伸びず。○後漢「伸」。○後漢「伸」。○後漢「伸」。

低 高の反ひくし。○岑參「軍山向」。○岑參「軍山向」。

住 止むる。止。○言「諸君少」。○後漢「停車」。○後漢「停車」。

佐 力添へ益を興ふ。○後漢「益」。○後漢「益」。○後漢「益」。

体 体伸びず。○後漢「伸」。○後漢「伸」。○後漢「伸」。

百に通じ用ふ。〇漢「仔」
之得。
〇陌に通じ用ふ。〇漢「甫」
〇一爲界。

佳 カイ、カク 古疎切 〇
略に同じ、あふ。

佳 (い)よろし、宜。〇管「小者」
(ろ)うつくし、美。〇准「人」
〇同。〇漢「小者」
〇よみず、好。〇老「兵者不詳」
〇よきもの、〇三國「一時」
〇よきもの、〇三國「一時」
〇よきもの、〇三國「一時」

佳 (い)よろし、宜。〇管「小者」
(ろ)うつくし、美。〇准「人」
〇同。〇漢「小者」
〇よみず、好。〇老「兵者不詳」
〇よきもの、〇三國「一時」
〇よきもの、〇三國「一時」

佳 (い)よろし、宜。〇管「小者」
(ろ)うつくし、美。〇准「人」
〇同。〇漢「小者」
〇よみず、好。〇老「兵者不詳」
〇よきもの、〇三國「一時」
〇よきもの、〇三國「一時」

佳 (い)よろし、宜。〇管「小者」
(ろ)うつくし、美。〇准「人」
〇同。〇漢「小者」
〇よみず、好。〇老「兵者不詳」
〇よきもの、〇三國「一時」
〇よきもの、〇三國「一時」

置室、重爲天下觀笑。
併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

殆ど相似たる貌にいふ字、ちかし、に
〇「列」
〇「列」
〇「列」

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

たけし、すこやか、健。〇「推」
木不搖而燕雀一之。
〇「推」
〇「推」

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

併 併に同じ。

賦、幽、疑、身、見、邊、見、邪、見、取、戒、取
を十使となす。〇王「侍」
〇「侍」
〇「侍」

賦、幽、疑、身、見、邊、見、邪、見、取、戒、取
を十使となす。〇王「侍」
〇「侍」
〇「侍」

賦、幽、疑、身、見、邊、見、邪、見、取、戒、取
を十使となす。〇王「侍」
〇「侍」
〇「侍」

賦、幽、疑、身、見、邊、見、邪、見、取、戒、取
を十使となす。〇王「侍」
〇「侍」
〇「侍」

はす字、たり。○范成大「知是兒孫圖草」。○周「大祝一誓令草舞」。○周「大祝一誓令草舞」。○周「大祝一誓令草舞」。

○周「大祝一誓令草舞」。○周「大祝一誓令草舞」。○周「大祝一誓令草舞」。○周「大祝一誓令草舞」。

倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。

倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。

○おほむれ、あらむし、樂略。○晉「此舉罪深、深之大也」。○杜預「發凡以言」。○南「古、今不」。○南「古、今不」。○南「古、今不」。

侍、シ、時更切。○侍、シ、時更切。○侍、シ、時更切。○侍、シ、時更切。○侍、シ、時更切。

倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。

倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。○倂、尺氏切。

宛
ヨシ、ヨシ、胡困切 〇

徑
ガウ、ギヤウ、牛耕切 〇

俾
クン、胡典切 〇

俛
テイ、杜制切 〇

俛
ツギあはす、わふ、縫 〇

俛
ツギあはす、わふ、縫 〇

俛
ツギあはす、わふ、縫 〇

俛
ツギあはす、わふ、縫 〇

併
ヘイ、パイ、部禮切 〇

併
ヨウ、余禮切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

併
ソウ、先紺切 〇

俘
フ、方無切 〇

俘
フ、方無切 〇

俘
フ、方無切 〇

俘
フ、方無切 〇

俘
フ、方無切 〇

俘
フ、方無切 〇

俘
フ、方無切 〇

俘
フ、方無切 〇

倂
ヘイ、パイ、部禮切 〇

倂
ヨウ、余禮切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ヘイ、パイ、部禮切 〇

倂
ヨウ、余禮切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ヘイ、パイ、部禮切 〇

倂
ヨウ、余禮切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ヘイ、パイ、部禮切 〇

倂
ヨウ、余禮切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ヘイ、パイ、部禮切 〇

倂
ヨウ、余禮切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ヘイ、パイ、部禮切 〇

倂
ヨウ、余禮切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ヘイ、パイ、部禮切 〇

倂
ヨウ、余禮切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ヘイ、パイ、部禮切 〇

倂
ヨウ、余禮切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

倂
ソウ、先紺切 〇

平均を失ひて一方へ寄る。○(宋)貨一則民病故先主立井田一之。

中正ならざるを、平一ならざるを、かたよると、かたおち、かたより。○(書)無偏無倚。

かたはら、かたへ、旁側。○(左)骨楚各處其一。

かたひな、かたひな、邊路。○(左)奉許叔以居許東。

なにかま、みうち、爲屬。○(左)魯其不爲魯。

すけそ、輔佐。○(左)司馬令尹かたわれのこり、殘黨。

かたわれのこり、殘黨。○(左)桓氏雖亡必有。

○(史)守新城存民苦矣。○(史)守新城存民苦矣。

○(史)守新城存民苦矣。○(史)守新城存民苦矣。

にせもの、爲物。○(詩)他奔切。

傷 タウ、他奔切。

傷に通じ用ふ、なほし、たひらか。○(揚雄)魯仲連一而不調。

僱 アク、オク、於角切。

僱促は拘泥の貌にいふ語、かへはる。ガク、逆各切。

僱 ほし(多)。

僱 カイ、古語切。

僱 つよし、たけし、強壯。○(詩)君子朝夕從事。

僱 同伴して、同一。○(易)與時行。○(史)約與食、客門、下有。

長き貌にいふ字、ながし。○(唐)侃に同じ。

倨 テイ、タイ、都計切。

倨は困劣の貌にいふ語、にぶし。○(宋)若真、實一ニ功夫一何用、此等裝飾一耶。

倨 サク、則器切。

倨 倨は、小人の貌にいふ語、ちひさし。○(北)大車已到、不得久。

倨 中途に休止して進まず。○(晉)乃小、夜中發去。

倨 休息す、やすむ。○(晉)兼不暫促提、器一之。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

倨 倨は、唐突に同じ、またがはざると、だしのけにもする。

倨 倨の本字。○(世説)婦才智ある者の稱、すぐれびと。

(い) 接近したる場所ちかきところ
 左右 ○(詩) 止于邱一
 (ろ) 偏倚したる場所、かたよりのた
 と、ろ、邊旁 ○(禮) 升自一
 (か) たむ、○(詩) 一階
 (ふ) かけたる、そばだつ、○(詩) 一
 弁之儀、
 (ろ) 中を過ぐ、○(儀) 日一
 (ろ) 中正を失したるとかたより、わか
 まり偏邪、○(書) 無反無一
 (ろ) 返く、○(齊) 不取背一
 (ろ) 伏す縮む、○(准) 一谿谷之間
 (ろ) いやし、ひくし、卑隘、○(書) 明
 揚一階
 (ろ) かすか、ほのか、幽微、○(韓愈) 一
 閑閣下抱不世出之才
 (ろ) ひとつ、單隻、○(儀) 一尊
 (ろ) 特別に、ことに、○(禮) 又一授
 宰制一
 (ろ) 永字八法の一、即ち永の字の第一筆
 これを點と稱せずして側と稱する
 は、筆鋒の險にしてそばだつるを法
 とす、○(崔瑗) 一蹲踞
 而臨一石
 (ろ) 側と同じ、いたむ、○(楚辭) 隱思
 君兮降一
 (ろ) 復(ろ) 官職を失せしむ、○(文選) 復
 (ろ) 復(ろ) 官職を失せしむ、○(文選) 復
 (ろ) 復(ろ) 官職を失せしむ、○(文選) 復
 (ろ) 復(ろ) 官職を失せしむ、○(文選) 復

偶 ヲ、ウ、ク、五口切 困
 (ろ) 人類の形相にかたどり作りたるも
 の、ひとがた、でく、にんぎやう、○
 (史) 木一人與三土一人相語、○

対の數をひたる數二を以て整除
 してあまりなき數ちやうのかずち
 やう、○(禮) 鼎俎奇而藻豆一
 對合す、伴合す、そのふなちふあふ
 あはす、たぐふ、たぐはす、○(家語)
 聖人因時以合二男女一
 たり、
 (ろ) 天たる者、要たる者、つま、つれあ
 ひ、配匹、伉儷、○(後漢) 吾爲子
 求一
 (ろ) 同等にてある者、同類にてある
 者、なかつとも、伍、偶、○(史)
 (ろ) 偶に同じ、やどる、やどかる、○(禮)
 相與宿一
 (ろ) 然るを期せずして然る、たまさか
 たま、○(通雅) 列、鄰、國之治一
 耳非子之功也、○(史) 一
 (ろ) 偶に同じ、やどる、やどかる、○(禮)
 相與宿一

倣 ナ、勝利切 困
 あつひ、あはす(會)、○(揚雄) 凡會
 物謂三之一
 (ろ) 倣、トウ、ク、託後切 困
 (ろ) 目前の安きに從ひて改めざると、暫
 時の間にあはせに行ふと、なげやり
 にする、なげやり、なげやり、
 (ろ) 安、安、安、
 (ろ) 倣、倣、倣、
 (ろ) 倣、倣、倣、
 (ろ) 倣、倣、倣、

(い) 観望す、ながむ、のぞむ、○(周)
 市有、○(詩) 一
 (ろ) 待迎す、まらう、むかふ、○(詩)
 彼一人兮、
 (ろ) 考占す、かんがふ、はかる、○(史)
 (ろ) 以、氣應、
 (ろ) 探眼す、のぞく、さぐる、○(宋)
 遣兵二千餘人、
 (ろ) 訪問す、おとづる、とぶ、○(後)
 漢) 乃就一之
 (ろ) 診察す、ためす、みる、○(物理論)
 (ろ) 寒、温、
 (ろ) まもる(護)、○(釋名) 一護也、可
 護諸事也、
 (ろ) 護(ろ) 官人、さかひのやく
 にん、○(左) 護一守之、
 (ろ) のみ、
 (ろ) 状況を望望し事情を探視する
 もの、○(後漢) 偵一皮卒、
 (ろ) 不虞を警戒するため四方を展
 望す、高く設けたる所、○(後)
 漢) 案一平一修、
 (ろ) 氣象上にて時氣の小變動ありと稱
 せらる、一期間即ち五日間の稱三
 回を一氣とし、一ヶ月は二氣六候に
 して、一十年は二十四氣七十二候と
 す、○(唐) 七十二、原于周公
 時訓月令、自後魏始載于曆、
 名四十二、七十二、
 正立春、東風解凍、蟄蟲始動、魚上冰、
 雨水、獺祭魚、鴻雁北來、草木萌動、
 二月、春分、玄鳥至、雷乃發聲、始電、
 三月、清明、桐始華、田鼠始鳴、紅杏兒、
 月、穀雨、萍始生、鳴鳩拂羽、戴勝時、
 四月、立夏、鵙始鳴、蚯蚓出、王瓜生、
 月、小滿、苦菜秀、靡草死、麥秋至、

偶 ヲ、ウ、ク、五口切 困
 (ろ) 人類の形相にかたどり作りたるも
 の、ひとがた、でく、にんぎやう、○
 (史) 木一人與三土一人相語、○

対の數をひたる數二を以て整除
 してあまりなき數ちやうのかずち
 やう、○(禮) 鼎俎奇而藻豆一
 對合す、伴合す、そのふなちふあふ
 あはす、たぐふ、たぐはす、○(家語)
 聖人因時以合二男女一
 たり、
 (ろ) 天たる者、要たる者、つま、つれあ
 ひ、配匹、伉儷、○(後漢) 吾爲子
 求一
 (ろ) 同等にてある者、同類にてある
 者、なかつとも、伍、偶、○(史)
 (ろ) 偶に同じ、やどる、やどかる、○(禮)
 相與宿一
 (ろ) 然るを期せずして然る、たまさか
 たま、○(通雅) 列、鄰、國之治一
 耳非子之功也、○(史) 一
 (ろ) 偶に同じ、やどる、やどかる、○(禮)
 相與宿一

倣 ナ、勝利切 困
 あつひ、あはす(會)、○(揚雄) 凡會
 物謂三之一
 (ろ) 倣、トウ、ク、託後切 困
 (ろ) 目前の安きに從ひて改めざると、暫
 時の間にあはせに行ふと、なげやり
 にする、なげやり、なげやり、
 (ろ) 安、安、安、
 (ろ) 倣、倣、倣、
 (ろ) 倣、倣、倣、
 (ろ) 倣、倣、倣、

身を備作に任ずる、やとほれ。
〔倂〕チ、地爾 〇シ、息移 〇

倂の條を見よ。
〔倂〕カツ、カチ、呼八切 〇

倂は、健なる貌又は憚る所なき貌に
いふ語つよし、ほし、い、〇〔倂〕
愈、填、隠、賊、〇

倂は、醜惡の貌にいふ語、みにくし。
〔倂〕サグ、シヤク、山責切 〇

倂は、桑故切 〇
〔倂〕ソ、桑故切 〇

倂は、同。〔倂〕蘇、蘇、其所、如、
暮、則、東、山、而、歸、〇〔倂〕
常、の、分、に、違、ふ、ま、た、が、ふ、〇〔倂〕
備、二、常、分、二、日、レ、〇

倂は、同。〔倂〕キ、キ、墨、墨、切、〇

倂は、同。〔倂〕フ、方、務、切、〇

倂は、同。〔倂〕イ、イ、左右に奉侍して養育又は輔弼
す、かしく、つ、き、そ、ふ、た、す、
〇〔倂〕三、材、一、之、天、佑、之、矣、
〇〔倂〕附、若、す、〇〔倂〕左、環、城、
手、操、二、
〔倂〕は、從、事、す、〇〔倂〕以、レ、土、
御、二、選、三、其、私、人、二、

倂は、同。〔倂〕イ、イ、左右に奉侍して養育又は輔弼
す、かしく、つ、き、そ、ふ、た、す、
〇〔倂〕三、材、一、之、天、佑、之、矣、
〇〔倂〕附、若、す、〇〔倂〕左、環、城、
手、操、二、
〔倂〕は、從、事、す、〇〔倂〕以、レ、土、
御、二、選、三、其、私、人、二、

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

倂は、同。〔倂〕ケ、ケ、胡、胡、切、〇

僱 エウ、餘招切。園 借同、じつたふる。たふす。○(荀)可吹而一也。	僱 タイ、ギヤウ、渠敬切。園 就に同じ、きでふ。○(周)註、繁、過執一也。	僱 サウ、セウ、土殺切。切 スウ、セウ、土殺切。切	僱 テイ、タイ、都計切。園 としする(後)	僱 タク、チヤク、砂半切。園 僱る所なし、ほい、ま。	僱 セツ、先結。園シツ、息七。園 ほそき聲又、うめく聲。○(爾)註、聲、音一一然也。	僱 嬢嬢に同じ。○(楚)辭、遠一。園 俚分、臨、林、淨。	僱 ルウ、耶侯。困。豆。切。園 ルウ、耶侯。困。豆。切。園	僱 カベ、む。	僱 音曲がる、まがる。○(白)虎通。周公背一。	僱 音を曲ぐ、せぐ、まる。○(左)「命而」。○(荀)「未、能」。指也。	僱 (風)折する。○(荀)「未、能」。指也。	僱 背の曲がる病、又、其の病者、せむし。くせ。○(史)「褚克」。○(風)「(コ)マ」。○(風)「(コ)マ」。	僱 欠けたやぶる、又、くたやぶる。○(荀)「林、一」。○(史)「褚克」。○(風)「(コ)マ」。○(風)「(コ)マ」。	僱 欠けたやぶる、又、くたやぶる。○(荀)「林、一」。○(史)「褚克」。○(風)「(コ)マ」。○(風)「(コ)マ」。	僱 欠けたやぶる、又、くたやぶる。○(荀)「林、一」。○(史)「褚克」。○(風)「(コ)マ」。○(風)「(コ)マ」。
--	---	-------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--	--	---	----------------	--------------------------------	--	-------------------------------	---	---	---	---

僱 エウ、餘招切。園 借同、じつたふる。たふす。○(荀)可吹而一也。	僱 タイ、ギヤウ、渠敬切。園 就に同じ、きでふ。○(周)註、繁、過執一也。	僱 サウ、セウ、土殺切。切 スウ、セウ、土殺切。切	僱 テイ、タイ、都計切。園 としする(後)	僱 タク、チヤク、砂半切。園 僱る所なし、ほい、ま。	僱 セツ、先結。園シツ、息七。園 ほそき聲又、うめく聲。○(爾)註、聲、音一一然也。	僱 嬢嬢に同じ。○(楚)辭、遠一。園 俚分、臨、林、淨。	僱 ルウ、耶侯。困。豆。切。園 ルウ、耶侯。困。豆。切。園	僱 カベ、む。	僱 音曲がる、まがる。○(白)虎通。周公背一。	僱 音を曲ぐ、せぐ、まる。○(左)「命而」。○(荀)「未、能」。指也。	僱 (風)折する。○(荀)「未、能」。指也。	僱 背の曲がる病、又、其の病者、せむし。くせ。○(史)「褚克」。○(風)「(コ)マ」。○(風)「(コ)マ」。	僱 欠けたやぶる、又、くたやぶる。○(荀)「林、一」。○(史)「褚克」。○(風)「(コ)マ」。○(風)「(コ)マ」。	僱 欠けたやぶる、又、くたやぶる。○(荀)「林、一」。○(史)「褚克」。○(風)「(コ)マ」。○(風)「(コ)マ」。	僱 欠けたやぶる、又、くたやぶる。○(荀)「林、一」。○(史)「褚克」。○(風)「(コ)マ」。○(風)「(コ)マ」。
--	---	-------------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------	--	--	---	----------------	--------------------------------	--	-------------------------------	---	---	---	---

僂

セン。司連切 〇
仙に同じ、せんに入。〇唐。知草見。其文二款曰子諱。一人也。

僂

音韻共に詳かならず。
拘囚の貌にいふ字。〇荀。然若二。終身之。〇

儉

シヤ。正審切 〇
儉は、儲くして徳なき。

儉

シヤ。正審切 〇
儉は、衣服の斐斐する貌にいふ。〇

儉

セン。子倫切 〇
儉に同じ、またがふ。〇禮。介詩。儉。詩。詩皆居右。

儉

シヤウ。徐兩切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

儉

ホク。ホク。普木切 〇
儉の貌にいふ字、むらがる。とよ。〇

儉

儉に同じ、ひるし。

儉

キ。許其切 〇
儉に通じ、用ふ、よる。こぶ。たのしむ。

儉

ラウ。ロウ。耶到切 〇
儉に同じ。

儉

クラウ。古黃切 〇
儉に同じ、いふ字、たけし。

儉

セン。切善。切善。切善。切善。

儉

セン。切善。切善。切善。切善。

儉

セン。切善。切善。切善。切善。

儉

セン。切善。切善。切善。切善。

儉

セン。切善。切善。切善。切善。

儉

セン。切善。切善。切善。切善。

儉

セン。切善。切善。切善。切善。

僂

ソ。祖木切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

僂

ホク。ホク。蒲沃切 〇
儉。儉。儉。儉。儉。

倭 ケイ、遺禮切。衣領を開く、ひろく、ひろく。

僭 テツ、テチ。他結。僭の條を見よ。

僇 タン、ダン。徒案切。あつし、僇。○詩「逢天一怒」とし、疾。○周「句兵欲無」。

僇 セン、セン。齒善切。僇は、行き動く貌にいふ語。○司馬相如「象與一于西清」。

僇 ケウ、ケウ。堅齧切。いづはる、いづはる、僇。

僇 ケウ、ケウ。吉丁切。利を求む、もとむ。○班固「劣者有二俸」。

僇 シウ、シユ。即就切。使用の報酬、勞作の賃錢、むくい、あつし。○漢「或不償其」。

僇 シウ、シユ。即就切。使用の報酬、勞作の賃錢、むくい、あつし。○漢「或不償其」。

僇 シウ、シユ。即就切。使用の報酬、勞作の賃錢、むくい、あつし。○漢「或不償其」。

以上和合して道を修むるものを稱するを本義とすれど、普通には佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

佛門に入り剃髮して法衣を着け佛道を修むる男子の稱ばうず、出家、沙門、比丘。○釋宗記「講衣紅」。

フン、ホン。方問切。たふる、僇。○左「鄭伯之車」。

たふる、僇。○左「鄭伯之車」。于濟。○大「一言一」。○左「張脈」。○左「張脈」。○左「張脈」。

たふる、僇。○左「鄭伯之車」。于濟。○大「一言一」。○左「張脈」。○左「張脈」。

たふる、僇。○左「鄭伯之車」。于濟。○大「一言一」。○左「張脈」。○左「張脈」。

たふる、僇。○左「鄭伯之車」。于濟。○大「一言一」。○左「張脈」。○左「張脈」。

たふる、僇。○左「鄭伯之車」。于濟。○大「一言一」。○左「張脈」。○左「張脈」。

たふる、僇。○左「鄭伯之車」。于濟。○大「一言一」。○左「張脈」。○左「張脈」。

たふる、僇。○左「鄭伯之車」。于濟。○大「一言一」。○左「張脈」。○左「張脈」。

たふる、僇。○左「鄭伯之車」。于濟。○大「一言一」。○左「張脈」。○左「張脈」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

僭 シン、側禁切。いづはり、不信。○詩「始既誦」。

僭 シン、側禁切。いづはり、不信。○詩「始既誦」。

僭 シン、側禁切。いづはり、不信。○詩「始既誦」。

僭 シン、側禁切。いづはり、不信。○詩「始既誦」。

僭 シン、側禁切。いづはり、不信。○詩「始既誦」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

未だ冠せざるもの、知識未だ發達せざるもの、わらは、こども、幼穉。○國「使子備官」。

出づ。○台原(馬)神命... 又... 物を買ふる直、あたひれたん。

【備】 クワイ、(ワイ)戸賄切 囹

【僻】 へき、ロヤク、芳辞切 囹

【備】 偏して正しからず、かたよる、ひがむ、ねぢく。○管「有法不正有度不直則治、治一則國亂。」

【僻】 ひがみ、よこしま、偏邪。○戦「俗一者亂民。」

【僻】 あやまり、まちがひ、飛誤。○南「與人語亦多謬。」

【僻】 いやし、せまし、鄙陋。○唐「邊人陋一不知三文、備貴。」

【僻】 偏一偶全、實類「遺廢。」

【僻】 かたよりの場所、かたよらぬ。○宋「進士登相習爲三奇。」

【僻】 宋「進士登相習爲三奇。」

【僻】 宋「進士登相習爲三奇。」

【僻】 宋「進士登相習爲三奇。」

【僻】 癖に同じ、ひめがき。○杜預「城上一虎。」

【僻】 癖に同じ、さく。○正字通「引詩書に同じ。」

【僻】 シワ、シユ、鈕結切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 癖に同じ、ひめがき。○杜預「城上一虎。」

【僻】 癖に同じ、さく。○正字通「引詩書に同じ。」

【僻】 シワ、シユ、鈕結切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 癖に同じ、ひめがき。○杜預「城上一虎。」

【僻】 癖に同じ、さく。○正字通「引詩書に同じ。」

【僻】 シワ、シユ、鈕結切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

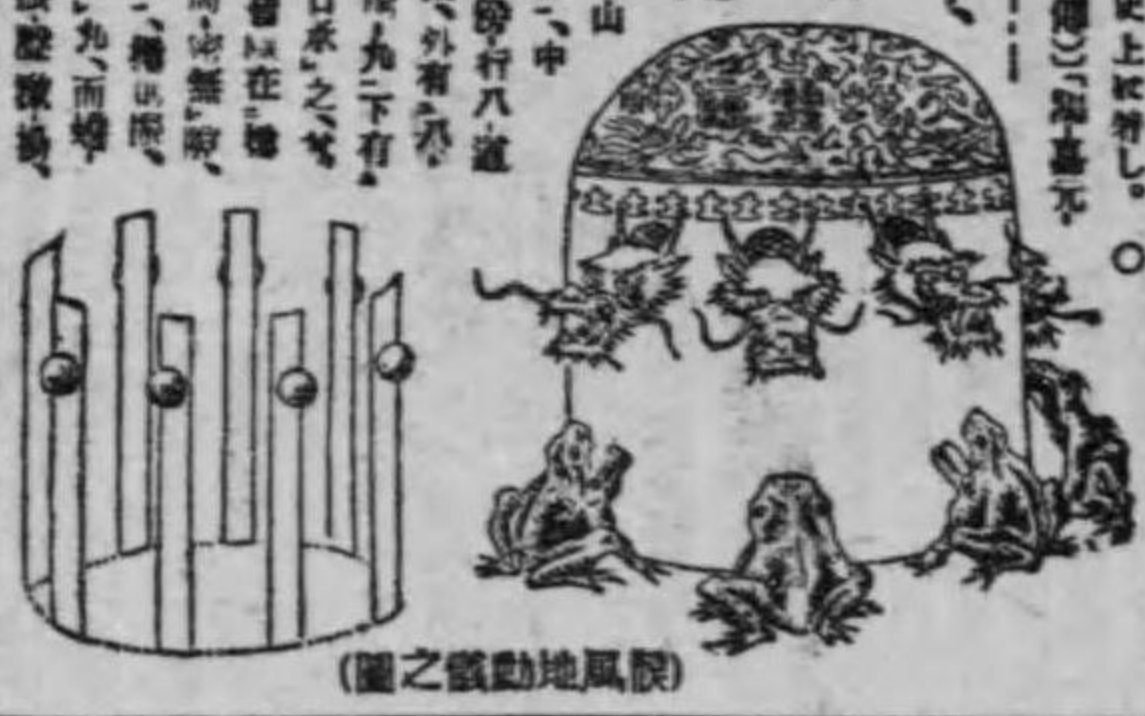
【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹

【僻】 癖に同じ、ひめがき。○杜預「城上一虎。」

【僻】 癖に同じ、さく。○正字通「引詩書に同じ。」

【僻】 シワ、シユ、鈕結切 囹

【僻】 シワ、シユ、側鳩切 囹



圖之儀動地風説



圖之儀天球

天也(イ)萬古のとも又、せらる。○(左)「天也」...

男子、はらからにして年上なる男子、このかみ、いろせ。○(孝)「敬其」弟悦...

況に同じ。○(樊毅)「君」管必書一乃盛德。○(白虎通)「者況也況于父也」...

俗の光の字。○(光)「光」は、天の光也。○(左)「光」...

兄 ケイ、キヤウ。許容切 夔

兄 キヤウ、カウ。許放切 夔

叱 ヨク、公月切 夔

凡 部 (四畫) 八十二

兇 キロウ、ク。許容切 夔

先 セン、先見切 夔

先 セン、蘇典切 夔

光 クワウ、古黃 夔

凡部 十二畫 八入部
(凡) 通也。
(凡) 通也。
(凡) 通也。

兒部 五畫 八入部
(兒) ガイ、ガイ。五積切。
(兒) 通也。
(兒) 通也。

党部 八畫
(党) タウ。底期切。
(党) 通也。
(党) 通也。

入部
(入) シフ、ニフ。口汁切。
(入) 通也。
(入) 通也。

八入部 十二畫
(八) 通也。
(八) 通也。
(八) 通也。

内部 八畫
(内) ダイ、ナイ。奴對切。
(内) 通也。
(内) 通也。

内部 八畫
(内) タウ、ナイ。儒稅切。
(内) 通也。
(内) 通也。

内部
(内) シフ、ニフ。口汁切。
(内) 通也。
(内) 通也。

【音】 古文の財の字。
 【兩】 古文の兩の字。
 【八】 俗の八の字。
 【俞】 ユ、七朱切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖
 【八】 ハツ、ハチ。傳按切。圖
 【俞】 ユ、愈茂切。圖

共 キヨク、ク、居城切 圃

むかふ向 ○(論)「居其所」而來
風一之

共 ク、ク、忌過切 圃

具に通じ用ふ、そなふ、そなへ
「畢」「禁脔用體骨體」

矢 セウ、私召切 圃

古文の笑の字、わらふ、わらひ
「龍」「龍」

兵 ヘイ、ロヤウ、甫明切 庚

兵器、武器、軍器

①(兵) 戦いに使用する敵人を殺傷する目的の器具、いくさだうぐ、はもの武器、○(世本)「槍尤以金作」、有「五」、○(武器を備へて軍に従ふ人、いくさのうすもの、ろふ、軍士、○(禮)「兵士」



兵車、戦車、○(詩)「車」

②(兵) 戦いの器具、武器、軍器、○(詩)「車」

③(兵) 戦いの器具、武器、軍器、○(詩)「車」

④(兵) 戦いの器具、武器、軍器、○(詩)「車」

其 キ、ヤ、渠之切 因

①(其) 代名詞、○(詩)「其」

其 キ、居更切 圃

無意味の助字、○(詩)「彼」

①(其) 無意味の助字、○(詩)「彼」

②(其) 無意味の助字、○(詩)「彼」

③(其) 無意味の助字、○(詩)「彼」

冒 ボク、モク。密北切 〇
 〇むさぼる。〇左「食」之民。
 〇おかす。〇漢「」百、力。
 子、かかし入。〇古語「」一、
冒 パイ、メ。莫佩切 〇
 魚の屬、たいまい。〇漢「毒」
冒 パウ、モウ。莫老切 〇
 老に同じ、さる、えらぶ。〇枚乗「
 以」山、南。
間 カツ、ガチ。何葛切 〇
 島に同じ、いづくんぞ、なんぞ。〇石
 鼓文「」不、余、反。
冓 コウ、ク。古候切 〇
 冓木を交へ積む、かまふ、くむ。
 〇宮中の奥、隠なる處、おくでんのおく
 まりたること、ろ、へや、れや、内房。
 〇漢「」中、之、言。
 〇冓を十倍したる數の名。
 〇中、冓中の冓とす。冓、中、
 冓、一、也。

冕 バウ、モウ。莫報切 〇
 大夫以上の人の朝廷の祭祀などの如
 きに、ほやけの儀式に列するときに
 着用する冠、附屬の裝飾は位階の高
 下によりて異同あれども、前の狭く
 なり、其の前後を低くして、後を高くし
 たるは人の儀して、敬禮を行へる意
 度にかたどり、恭を主とする意を寓
 したるものとす。傳説によれば、黃
 帝の創作なりとす。たまたまのむらりか
 むり。〇左「我有伯父」、猶、衣、服
 之有冠。一、也。
 〇冕、赤色の色を染めたる布で作れる冠の名。
 〇漢「」一、也。
 〇冕、先王を祀
 するに、冠を穿して、
 して、冠を穿して、
 〇漢「」一、也。
 〇冕、先王を祀
 するに、冠を穿して、
 して、冠を穿して、
 〇漢「」一、也。

冠 セイ、シャク。時征切 〇
 冠、髪を覆ふ、髪を束ね、髪を束ね、
 〇漢「」一、也。
冕 セイ、シャク。時征切 〇
 冠、髪を覆ふ、髪を束ね、髪を束ね、
 〇漢「」一、也。
冓 コウ、ク。古候切 〇
 冓木を交へ積む、かまふ、くむ。
 〇宮中の奥、隠なる處、おくでんのおく
 まりたること、ろ、へや、れや、内房。
 〇漢「」中、之、言。
 〇冓を十倍したる數の名。
 〇中、冓中の冓とす。冓、中、
 冓、一、也。

冓 コウ、ク。古候切 〇
 冓木を交へ積む、かまふ、くむ。
 〇宮中の奥、隠なる處、おくでんのおく
 まりたること、ろ、へや、れや、内房。
 〇漢「」中、之、言。
 〇冓を十倍したる數の名。
 〇中、冓中の冓とす。冓、中、
 冓、一、也。
冓 コウ、ク。古候切 〇
 冓木を交へ積む、かまふ、くむ。
 〇宮中の奥、隠なる處、おくでんのおく
 まりたること、ろ、へや、れや、内房。
 〇漢「」中、之、言。
 〇冓を十倍したる數の名。
 〇中、冓中の冓とす。冓、中、
 冓、一、也。

部

元 イン。餘針切 〇
 〇元、餘針切 〇
元 イン。餘針切 〇
 〇元、餘針切 〇
元 イン。餘針切 〇
 〇元、餘針切 〇

元 イン。餘針切 〇
 〇元、餘針切 〇
元 イン。餘針切 〇
 〇元、餘針切 〇
元 イン。餘針切 〇
 〇元、餘針切 〇

冓 コウ、ク。古候切 〇
 冓木を交へ積む、かまふ、くむ。
 〇宮中の奥、隠なる處、おくでんのおく
 まりたること、ろ、へや、れや、内房。
 〇漢「」中、之、言。
 〇冓を十倍したる數の名。
 〇中、冓中の冓とす。冓、中、
 冓、一、也。

冓 コウ、ク。古候切 〇
 冓木を交へ積む、かまふ、くむ。
 〇宮中の奥、隠なる處、おくでんのおく
 まりたること、ろ、へや、れや、内房。
 〇漢「」中、之、言。
 〇冓を十倍したる數の名。
 〇中、冓中の冓とす。冓、中、
 冓、一、也。

刀部

出 七ツ、セチ。側劣切。...

函 カン、オン。胡男切。...

函 カン、オン。胡男切。...

出 ス井、尺類切。...

函 カン、オン。胡男切。...

刀 タウ、トウ。都高切。...



出 ス井、尺類切。...

出 ス井、尺類切。...

函 カン、オン。胡男切。...

刀 タウ、トウ。都高切。...

吃 キツ、ギチ、魚乙切 𠄎
 木の枝を折る、さる。
 𠄎、枯昆切 𠄎

剗 ソン、忽混 𠄎、此演 𠄎
 切斷す、細切す、たつ、さる、さく、さむ、さむ、
 𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、
 𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、𠄎、

剗 テツ、チチ、知敏切 𠄎
 刀に血を塗る、ちぬる。

剗 プン、モン、亡粉切 𠄎
 頸を斷つ、くびきる、くびはぬ、〇(禮)
 不至者、其人、

剗 シ、昌止切 𠄎
 物を割く、さく。

剗 キ、居依 𠄎、吉器 𠄎
 剗、切、剗、切、剗、切、剗、切、

剗 クワイ、古對 𠄎、古外 𠄎
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 サン、セン、所監切 𠄎
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 タン、得早切 𠄎
 さく、わる、剗、

剗 ケイ、ギヤウ、戸經切 𠄎
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 常法、つれ、〇(國)天地之、
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 クワ、ケ、古臥切 𠄎
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 クワ、古火切 𠄎
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 アマン、五丸切 𠄎
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 カツ、カチ、倍八切 𠄎
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 ショウ、シユ、之容切 𠄎
 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

剗 剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、剗、

陰を去る刑、かくしごとを去ると、又其の刑に行ふ、つみする。〇

削 セン、章廉切 〇

割 レイ、切 〇 力切 〇

剝 レン、力強切 〇

剝 ショク、シキ、所力切 〇

剝 ゴフ、逆法、セフ、七接 〇

劇 ケキ、ギヤク、巨戦切 〇

劇 いたむ、痛、なやむ、〇王祭

劇 〇多なり、まげ、おほし、〇荷、楯

劇 〇論衡、儒生、栗々不能當、〇後漢

劇 〇辛白、折花門前、〇陳、勸

劇 〇辛白、折花門前、〇陳、勸

劇 〇辛白、折花門前、〇陳、勸

削 リツ、リチ、力質切 〇

削 セン、旨善 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

削 セン、切 〇 式戦

力部 (七畫)
勅(七) 勅(七) 勅(七)
勅(七) 勅(七) 勅(七)
勅(七) 勅(七) 勅(七)
勅(七) 勅(七) 勅(七)
勅(七) 勅(七) 勅(七)

勞(七) 勞(七) 勞(七)
勛(七) 勛(七) 勛(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)

勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)

勅(七) 勅(七) 勅(七)
勅(七) 勅(七) 勅(七)
勅(七) 勅(七) 勅(七)
勅(七) 勅(七) 勅(七)
勅(七) 勅(七) 勅(七)

勛(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)

勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)
勳(七) 勳(七) 勳(七)

勞 ワ、ロ、ル、郎到切。○漢王
はたらきを謝す、つかれを慰む、なぐさむ、いはる、れ、ぐら、む。○楊惲「羊腸、羔斗酒自酌」。○漢蘇武「六十一年」。○漢史「牛馬」。○漢史「六十一年」。○漢史「六十一年」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勢 シ、シ、勢切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 キ、キ、渠渠切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

勸 マ、マ、末各切。○漢史「各其」。○漢史「各其」。○漢史「各其」。

燐 レン。力聲切 燐
考る貌にいふ字、おとる。

勸 ヲ、ロ、長徒切 勸
たすく、助。 ○みちびく、導。

勺部

勺 ハウ、ヘウ。布交切 勺
つゝむ、蓋。

勺 シヤク。時灼切 勺
「把」み取る、すくふ、くむ。 ○「漢」
「椒漿」。

勺 酒をくむ用器、ひさぎ、さかづき。 ○
「詩」一「錫角、錫」。

勺 ひさぎにてくみたる分量、轉じて、少
なき分量。 ○「禮」水一「之多」。

勺 容量の名目、即ち合の十分の一。 ○
「文獻通考」分毫合一。

勺 周公旦の制作したる音楽。 ○「儀
「舞則」。

勺 キン。羊倫切 勺
「すくなし」少。 ○「薩都刺」雨温鼓、
聲重、風一湖、面平。

勺 ととのふ、齊。 ○「杜甫」肌理細、肌
骨肉。

勺 ひとし、均。 ○「白居易」頭比簪、
霜「白未」。

勺 あまれし、偏。 ○「方孝孺」雨初歇、
而香。

勺 均に同じ、ひとし。

勺 キウ、ク。居求切 勺
鳩九に同じ、あつむ。 ○「莊」一「三、維
天下之川」。

勺 ブン、武粉 勺。ハウ、薄削切 勺
おほふ、覆。

勺 ハウ、ヘウ。必致切 勺
鳥卵をいだきあたむ、いだく。

勺 コウ、古侯 勺。困 古侯切 勺
勺に同じ。

勺 プツ、モチ。文拂切 勺
支那の古昔、州里にて事變あるに際
し人民を招き聚むるに用ひし信號
旗、其の半幅は色を異にしたりとい
ふ。 ○「禮」九旗雜、帛爲一。

勺 禁止に用ふる字、なかれ。 ○「論」過
則一「彈改」。

勺 手を地につきて行く、はふ。
勺に同じ、まざる。

勺 シユン。七倫切 勺
勺に同じ、まざる。

勺 クワイ、ケ。口怪切 勺
勺に同じ、おどろく。

勺 アフ、オフ。鳥合切 勺
奢侈ならざるを、おどらざるを、つゞま
やか。

勺 シユン、須倫 勺。先尹切 勺
勺に同じ、おどろく。

勺 セウ、ゼウ。時召切 勺
勺に懸けたる鉤、かぎ。

勺 家の本字、つか。

勺 キク、丘六キヨク、渠六
勺。切。ゴク。切。屋
背を曲ぐ、かむむ、くむ。

勺 クワイ、ケ。苦怪切 勺
勺に同じ、かや。

勺 ト、ツ。且鳥切 勺
伏して行く、はらばふ。

勺 ハウ、ベウ。薄交切 勺
瓜の屬、實は短頸大腹にして肉食ふ

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 ハウ、ヘウ。布交切 勺
べし、其の軀を去りて中を空洞に
し、乾かして器となす。或は水漿を入
るゝに用ひ、或は腰に巻けて水を泳
ぐに用ひ、又用ひて飲器となす。
ゆがほひ、ひさぎ、ふく、へ。 ○「詩」一
有「苦葉」。

勺 八音の一、即ち笙等の稱、笙に十三管
あり、管に三十六管ありて、古昔昔な
其の管を勺の内につられ作りたる
よりいふ。 ○「周」金石、土華、絲、木
一「竹」。

勺 ひさぎがたの飲器、さかづき。 ○
「宋」酌一「詩」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 ハウ、ヘウ。布交切 勺
勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 カチ、古達 勺。居大
勺。切。カチ。居大
勺。切。カチ。居大
勺。切。カチ。居大

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 勺に同じ、もとむ。あたふ。 ○
「漢」一「以啓告朕」。

勺 ハウ、ヒヤウ。普耕切 勺
大なる聲。

勺 シウ、シユ。之山切 勺
勺に同じ、あまれし、めぐる。

勺 キク。居六切 勺。或は揚
勺。コク。居六切 勺。或は揚

勺 兩手の中、一殿に、一手の中、てのひ
ら、たなごころ。 ○「詩」椒聊之實
蕃衍盈一。

勺 物をたなごころに入る、すくふ、にぎ
るむすぶ、つかむ。 ○「賈島」虬龍
一一「波」。

勺 タウ、ドウ。徒刀切 勺
勺に同じ、すまものすまものづくり、
やしなふ。

勺 エウ。餘韶切 勺
勺に同じ、陶器を製するに用ふるかま、
かはらくど、すまがま。

勺 カフ、コフ。公合切 勺
勺に同じ、めぐる、周。

勺 あふ、合。
勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、
勺、勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、
勺、勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 ハウ、ヒヤウ。普耕切 勺
大なる聲。

勺 シウ、シユ。之山切 勺
勺に同じ、あまれし、めぐる。

勺 キク。居六切 勺。或は揚
勺。コク。居六切 勺。或は揚

勺 兩手の中、一殿に、一手の中、てのひ
ら、たなごころ。 ○「詩」椒聊之實
蕃衍盈一。

勺 物をたなごころに入る、すくふ、にぎ
るむすぶ、つかむ。 ○「賈島」虬龍
一一「波」。

勺 タウ、ドウ。徒刀切 勺
勺に同じ、すまものすまものづくり、
やしなふ。

勺 エウ。餘韶切 勺
勺に同じ、陶器を製するに用ふるかま、
かはらくど、すまがま。

勺 カフ、コフ。公合切 勺
勺に同じ、めぐる、周。

勺 あふ、合。
勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、
勺、勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、
勺、勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 ハウ、ヒヤウ。普耕切 勺
大なる聲。

勺 シウ、シユ。之山切 勺
勺に同じ、あまれし、めぐる。

勺 キク。居六切 勺。或は揚
勺。コク。居六切 勺。或は揚

勺 兩手の中、一殿に、一手の中、てのひ
ら、たなごころ。 ○「詩」椒聊之實
蕃衍盈一。

勺 物をたなごころに入る、すくふ、にぎ
るむすぶ、つかむ。 ○「賈島」虬龍
一一「波」。

勺 タウ、ドウ。徒刀切 勺
勺に同じ、すまものすまものづくり、
やしなふ。

勺 エウ。餘韶切 勺
勺に同じ、陶器を製するに用ふるかま、
かはらくど、すまがま。

勺 カフ、コフ。公合切 勺
勺に同じ、めぐる、周。

勺 あふ、合。
勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、
勺、勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、
勺、勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 ハウ、ヒヤウ。普耕切 勺
大なる聲。

勺 シウ、シユ。之山切 勺
勺に同じ、あまれし、めぐる。

勺 キク。居六切 勺。或は揚
勺。コク。居六切 勺。或は揚

勺 兩手の中、一殿に、一手の中、てのひ
ら、たなごころ。 ○「詩」椒聊之實
蕃衍盈一。

勺 物をたなごころに入る、すくふ、にぎ
るむすぶ、つかむ。 ○「賈島」虬龍
一一「波」。

勺 タウ、ドウ。徒刀切 勺
勺に同じ、すまものすまものづくり、
やしなふ。

勺 エウ。餘韶切 勺
勺に同じ、陶器を製するに用ふるかま、
かはらくど、すまがま。

勺 カフ、コフ。公合切 勺
勺に同じ、めぐる、周。

勺 あふ、合。
勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、
勺、勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、
勺、勺に同じ、めぐる、周。 ○「水經」一「南州、

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

勺 古文の勺の字。

匊

水ク、ボク。匹北切

匊

ク。居祐

匊

セン、チン。日延切

匊

キク、コク。丘六切

匊

キウ、ク。丘弓切

匊

如長然

匊

キウ、ク。巨弓切

匊

古文の化字

化

クワ、呼

生育す死滅す、見出す消盡す

生滅消長の道

徳おのづと人を導く行おのづと人を感ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

其の然る所以を知らずして移る、又從ひ變ず

其の然る所以を講ぜずして移す、又從ひ變ぜしむ

匊

ハウ、ホウ。布抱切

匊

相次ぐならぶ、つづ

十家づゝ組み合ひて相互に特殊の責任を負ふもののみあり

匊

ホク、必勅切

たがふ(違)そむく(乖)○史「士無反之心」

匊

たれる方位子の方

斗柄一指天下皆冬

選「擲鳴、劔而抵掌、志馳于伊吾之」

子下子、伏也

不降、○漢「民守戰至死而不降」

○史「身七十餘戰、雁林南春、不失其時」

○史「雁林南春、不失其時」

○史「雁林南春、不失其時」

○史「雁林南春、不失其時」

匊

ハ、ハ、歩味切

別異にす、わかづ

○書「分、三、苗」

匊

ギ、愚其切

物事未だ定まらず、うたがふ、まどふ、のぶ暢

匊

ヤウ、餘音切

卓に同じ、たかし

匊

卓に同じ、たかし

匊

卓に同じ、たかし

匊

卓に同じ、たかし

匊

卓に同じ、たかし

匊

卓に同じ、たかし

匊

ハ、ハ、分房切

物を受くる方形の器、一斗の量を受くる方形の器は

匊

キウ、グ、渠救切

匊

イ、余支切

水若しくは酒漿を盛りて物に注ぐ用器柄ありて、柄に水若しくは酒漿を通ずる径路を設け、其の端を注口となす、はんさふ

○儀「執、者面、四、沃、淳」

○儀「執、者面、四、沃、淳」

匊

ハ、ハ、分房切

物を受くる方形の器、一斗の量を受くる方形の器は

匊

キウ、グ、渠救切

匊

イ、余支切

水若しくは酒漿を盛りて物に注ぐ用器柄ありて、柄に水若しくは酒漿を通ずる径路を設け、其の端を注口となす、はんさふ

○儀「執、者面、四、沃、淳」

○儀「執、者面、四、沃、淳」



匊之圖

午 疑古切 〇十二支の一、第七位にあるもの。〇書「六月庚」。〇辰の名。〇爾「太歳在」。〇時の名正午十二時まひる、方の名正南みなみ。〇宋「張作起」。

半 俗の舟の字 〇物を中分す、ふたつにわく、わかつ、わく。〇世説「祈諸屋柱一添割」。〇漢「朝臣外」。〇交横す、いきあふ、きりあふ。〇漢「本末」。

申 疑古切 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

申 疑古切 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

木 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

木 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

申 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

申 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

申 疑古切 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

申 疑古切 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

申 疑古切 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

申 疑古切 〇申分はんぶん。〇戰「秦不接」。

危 キ、ヤ、牛爲切 因
(一)あやふし。
(二)高くして懼るべし、險にして戒むべし、難んずべし、疾むべし、怖つべし。○孝「高而不」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

卵 ヲン、古門切 元
魚の子魚のたまご。○禮「鰾魚」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

却 俗の卻の字。
(一)あやふからしむ、あやふくす、傷み害す妨ぐ。○禮「比黨而」。

俗の隙の字、ひさふし。○漢一頓首一行。
【骸】 シエン、子蘭切 〇

【輿】 セン、七然切 〇
運に同じ、うつす、うつる。○漢一周人「其行序」。

厂部

【𠩺】 カン、呼肝 〇
いはば、いはば(骸)。○(きし)岸。

【𠩻】 ゲン、ヒン、魚飲切 〇
護に同じ、いけす。

【𠩼】 セン、之廉 〇
セシ、切、五委 〇

【厄】 アヲ、ヤク、於革切 〇
厄に同じ、あやふし、わざはひ。○(邪)怒、有作、科、一、爲、困、厄、其、順、非、在、知、此、者。

【𠩽】 アヲ、ヤク、於革切 〇
厄に同じ、あやふし、わざはひ。○(邪)怒、有作、科、一、爲、困、厄、其、順、非、在、知、此、者。

【𠩿】 アヲ、ヤク、於革切 〇
厄に同じ、あやふし、わざはひ。○(邪)怒、有作、科、一、爲、困、厄、其、順、非、在、知、此、者。

【𠩺】 キク、コク、居六切 〇
たもつにぎる(持)。

【𠩻】 タク、チャク、陟格切 〇
際と同じ、ひらきける、はる。

【𠩼】 シン、ジン、市真切 〇
辰に同じ。○道蔵洞靈眞經二夫難而作負日任勞。

【𠩽】 カイ、ケ、居拜切 〇
いたる(到)。

【𠩾】 カイ、カイ、口兮切 〇
地に倒る、たふる。

【𠩿】 ギ、ギ、符屬切 〇
水なみに流る、ながる。

【𠩺】 ハイ、ヘ、疋賣切 〇
水わかれ流る、わかる、又みなまた。

【𠩻】 セキ、シヤク、川隻切 〇
まりぞく、おふ、逐。

【𠩼】 シ、之是切 〇
いたす(致)。○(ひと)し(均)たひらか(平)。

【𠩽】 ショク、シキ、阻色切 〇
受

【𠩺】 いやし、隨、かたぶく、傾側、もつ(持)。

【𠩻】 キョク、コク、古録切 〇
コク、切、玉、コク、切、古録切。

【𠩼】 カフ、ケフ、古治切 〇
おほいなり(大)。

【𠩽】 シ、軫視、切、旨、同、底に、刀刃をたくに用ふる石の質柔かきものととし、あはせどまあけど。

【𠩿】 カフ、ケフ、古治切 〇
おほいなり(大)。

【𠩺】 テイ、都黎、切、丁計、切、底に、刀刃をたくに用ふる石の質柔かきものととし、あはせどまあけど。

【𠩻】 サ、セ、側下切 〇
所の時を見よ。

【𠩼】 サク、シヤク、陟格切 〇
俗に壁に作る、せはし、疾。

【𠩽】 ト、當古切、後古切 〇
底

美しき石。
【𠩺】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩻】 トリ、ゾ、徒冬切 〇
おくまりたる家。

【𠩼】 ケフ、コフ、乞業切 〇
岸上の出で見はれたる貌にいふ字、あらはる。

【𠩽】 ヤク、弋灼切 〇
岸上に出で見はれたる貌にいふ字、あらはる。

【𠩿】 カフ、コフ、乞業切 〇
山の左右にある水の岸、やまぎし。○(爾)左右有岸。

【𠩺】 ガイ、宜佳切 〇
水と陸との際みぎは水畔。○(爾)換爲。

【𠩻】 カフ、コフ、乞業切 〇
山際の間絶なる處、がけ、きりきし。○(爾)將士皆攀木緣し。

【𠩼】 ガイ、宜佳切 〇
水と陸との際みぎは水畔。○(爾)換爲。

【𠩽】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩺】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩻】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩼】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩽】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩿】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩺】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩻】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩼】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩽】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩾】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩿】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩺】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩻】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩼】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩽】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩾】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩿】 ヲフ、ロフ、薄合切 〇
石の聲。○(とり)ひしく(粒)。

【𠩺】 イ、以支切 〇
厚

【𠩻】 サ、セ、側下切 〇
厚

【𠩼】 カフ、コフ、湯合切 〇
厚

【𠩽】 シツ、シチ、式質切 〇
厚

【𠩾】 エ、隱登 〇
厚

【𠩿】 ガイ、ゲ、牛解切 〇
厚

又 〇そのほかに、そのうへに、ならびに、かされて、さらに、ふたたび、また、〇至、及、村之身、天下、大亂、〇宵に同じゆるす、たす、〇禮、王三、然、後、制、刑、

又 〇サ、シヤ、初、牙、切、

又 〇末二つ以上に分かる、わかる、〇蘇、〇末二つ以上に分かる、わかる、〇蘇、〇末二つ以上に分かる、わかる、

又 〇魚を取る、とる、又、またにて刺す、

又 〇高啓、持、燭、魚、

又 〇九、州、事、終、〇九、州、事、終、

又 〇九、州、事、終、〇九、州、事、終、

又 〇叙に同じ、かんざし、

又 〇サウ、側、巧、切、

及 〇古文の友の字、

及 〇キフ、ゴフ、渠、立、切、

及 〇お、よ、

及 〇お、よ、

及 〇お、よ、

及 〇お、よ、

友 〇志を同じ、するもの、親しく交はる、

友 〇志を同じ、するもの、親しく交はる、

友 〇志を同じ、するもの、親しく交はる、

友 〇志を同じ、するもの、親しく交はる、

友 〇志を同じ、するもの、親しく交はる、

友 〇志を同じ、するもの、親しく交はる、

友 〇志を同じ、するもの、親しく交はる、

友 〇志を同じ、するもの、親しく交はる、

受 〇物落ちて上下相付く、

受 〇物落ちて上下相付く、

受 〇物落ちて上下相付く、

受 〇物落ちて上下相付く、

受 〇物落ちて上下相付く、

受 〇物落ちて上下相付く、

受 〇物落ちて上下相付く、

受 〇物落ちて上下相付く、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、

又 〇漢、ハ、ン、甫、遠、切、